監査ログリファレンスガイド

目次

1

監査ログをお使いいただく前に

はじめに

このたびは、弊社製品をお買い上げいただき、まことにありがとうございます。

本書は、本機を管理するシステム管理者および機械管理者を対象に、監査ログの概要および監査ログの保存項目について説明しています。

なお、本書の内容は、お使いのパーソナルコンピューターの環境や、ネットワーク環境の基本的な知識や操作方法を習得されていることを前提に説明しています。お使いのパーソナルコンピューターの環境や、ネットワーク環境の基本的な知識や操作方法については、パーソナルコンピューター、オペレーティングシステム、ネットワークシステムなどに付属の説明書をお読みください。

富士ゼロックス株式会社

本書の使い方

本書は、監査ログの機能やフォーマットについて記載しています。

本書の構成

本書は、次の構成になっています。

■1 監査ログをお使いいただく前に

本書の使い方について説明しています。

■2 監査ログの概要

監査ログの概要、監査ログの機能について説明しています。

■3 監査ログのファイルフォーマット

監査ログのファイルフォーマットについて説明しています。

■4 監査ログの保存項目

監査ログの保存項目について説明しています。

本書の表記

- 本文中では、説明する内容によって、次のマークを使用しています。

補足
- 補足事項を記述しています。

参照
- 参照先を記述しています。

- 本文中では、次の記号を使用しています。

『　』	• 参照するマニュアルを表しています。
「　」	• 参照先を表しています。 • 監査ログに出力されるメッセージなどの名称を表しています。
“　”	• 監査ログに出力されるメッセージを表しています。
＞	• 参照先は、次のように表しています。 例：「『ユーザーズガイド』の「仕様設定」＞「共通設定」＞「音の設定」を参照してください。」は、ユーザーズガイドの「仕様設定」内の、「共通設定」での「音の設定」を参照することを表しています。

2

監査ログの概要

監査ログとは

監査ログとは、障害、構成変更、ユーザー操作など、本体内で発生した重要な事象（以降、監査事象と呼びます）を、いつ、何が（誰が）、どうした、その結果どうなったか、を記録したものです。

監査ログ機能を使用すると、本体の不正使用や不正使用の試みを監視できます。

監査ログの機能について

監査ログには、次の機能があります。

■監査ログの保存

本体で発生した監査事象を、監査ログとして本体に保存します。

ログは最大で 15,000 件まで保存され、15,000 件を超えると日付の古いログから削除されます。

ハードディスクが装着されていない機械の場合は、最大で 50 件のログが保存されます。

監査ログを保存するには、本体または CentreWare Internet Services で監査ログの設定を有効にします。

■監査ログの取り出し

本体に保存されている監査ログは、CentreWare Internet Services からテキストファイル形式で取り出すことができます。

■監査ログの Syslog 送信

本体に保存されている監査ログは、Syslog 送信（Syslog プロトコルを使ってネットワーク上の他のコンピュータに送信）することができます。

Syslog 送信の設定は、本体で行います。

参照

- 本体での設定は、『ユーザーズガイド』の「仕様設定」>「監査ログ設定」を参照してください。
- CentreWare Internet Services 上での設定は、CentreWare Internet Services のヘルプの「プロパティ」タブ>「セキュリティー」>「監査ログ」を参照してください。

3

監査ログのファイルフォーマット

取り出した監査ログのファイルフォーマット

本体に保存されている監査ログは、CentreWare Internet Services からテキストファイル形式で取り出すことができます。

ここでは、取り出した監査ログのファイルフォーマットについて説明します。

■ヘッダ情報

項目	出力形式	説明
フォーマットバージョン	整数	設定値は「3」です。
デバイス IP アドレス	半角英数字（a ～ z、0 ～ 9)、ドット（.)、コロン（:) 文字列	IP アドレス（IPv4 または IPv6）を表示します。
符号化方式	文字列	UTF8 に固定されています。
タイムゾーン	-720 ～ 720	GMT を基準とした時差を表示します。 単位は分とし、子午線より西まわりは負値とします。
年月日フォーマット	YYYY/MM/DD、MM/DD/YYYY、または DD/MM/YYYY	年月日フォーマットを表示します。

■監査ログ情報

項目	設定項目	設定内容
ログ識別子（Log ID）	整数 (1 ～ 60000)	監査事象発生時に割り振られる識別子が出力されます。
年月日（Date）	文字列	監査事象発生の年月日が出力されます。
時間（Time）	hh:mm:ss	監査事象発生の時間（ 時分秒) が出力されます。
監査事象識別子（Audit Event ID）	16 進整数 (0x0000 ～ 0xffff)	監査事象に対応する識別子が出力されます。
監査事象名（Logged Events）	文字列	監査事象の種別を表す文字列が出力されます。
ユーザ名（User Name）	文字列	監査事象を発生させたユーザ名が出力されます。 機械管理者の場合は “KO” カストマーエンジニアの場合は “CE” それ以外のユーザーの場合はユーザー ID ユーザーID が取得できない場合は “-”
監査事象詳細（Description）	文字列	監査事象の中身が出力されます。
結果 / 状態（Status）	文字列	発生した監査事象の処理結果もしくは状態が出力されます。

項目	設定項目	設定内容
個別保存項目（Optionally Logged Items）	文字列	監査事象の個別保存情報を出力します。

Syslog 送信のメッセージフォーマット

本体に保存されている監査ログは、Syslog 送信（Syslog プロトコルを使ってネットワーク上の他のコンピュータに送信）することができます。

ここでは、Syslog 送信のメッセージフォーマットについて説明します。

■Syslog メッセージフォーマット

項目	出力形式	説明
Priority	整数	Facility と Severity を合わせた値が出力されます。 Facility は本体で設定します。 Serverity は 6 に固定されています。
バージョン	1	1 に固定されています。
時刻	yyyy-mm-ddThh:mm:ssZ	監査事象発生の年月日および時間（時分秒）を出力します。 タイムゾーンは UTC です。
機械情報	FQDN の場合： 文字列 hostName の場合： 文字列 IPv4 アドレスの場合： nnn.nnn.nnn.nnn	ー
App-Name	“-”	“-” に固定されています。
ProcId	“-”	“-” に固定されています。
MsgId	“-”	“-” に固定されています。
Structured-Data	“-”	“-” に固定されています。
監査ログ ID	ID=nnnnnn	監査事象発生時に割り振られる識別子を出力します。
ユーザ名	UserName= 文字列	監査事象を発生させたユーザ名が出力されます。 機械管理者の場合は “KO” カストマーエンジニアの場合は “CE” それ以外のユーザーの場合はユーザー ID ユーザーID が取得できない場合は “-”
監査事象名	Event= 文字列	監査事象に対応する識別子が出力されます。
監査事象詳細	Description= 文字列	監査事象の中身が出力されます。
結果 / 状態	Status= 文字列	発生した監査事象の処理結果もしくは状態が出力されます。
個別保存項目	OptItems= 文字列	監査事象の個別保存情報を出力します。

4

監査ログの保存項目

監査事象一覧

以下は、監査事象の一覧です。

監査事象	監査事象識別子	分類
デバイスの状態変化	0x0101	デバイスの稼動開始および終了
ログインおよびログアウト	0x0201	ユーザ認証
監査ポリシーの変更	0x0301	重要データへのアクセス
ジョブの終了	0x0401	ジョブ
デバイス設定の変更 / 参照	0x0501	時刻設定 親展ボックス 認証モード
デバイス格納データへのアクセス	0x0601	証明書 アドレス帳 監査ログ
デバイス構成の変更 / 復旧	0x0701	重要データ HDD ROM
通信結果	0x0801	信頼性通信

デバイスの状態変化

■監査事象識別子（Audit Event ID）
0x0101

■監査事象名（Logged Event）
“System Status”

デバイスの稼動開始および終了

通常ブートによるコールドスタート

■年月日 / 時間（Date/Time）
デバイスが Ready となった時点

■ユーザー名（User Name）
“-”

■監査事象詳細（Description）
“Started normally（cold boot）”

■結果
“-”

■個別保存項目
“-”

通常ブートによるウォームスタート

■年月日 / 時間（Date/Time）
デバイスが Ready となった時点

■ユーザー名（User Name）
“-”

■監査事象詳細（Description）
“Started normally（warm boot）”

■結果
“-”

■個別保存項目
“-”

強制 LOG 初期化による立ち上げ

■年月日 / 時間（Date/Time）
デバイスが Ready となった時点

■ユーザー名（User Name）
“-”

■監査事象詳細（Description）
“Started（NVM initialized）”

■結果
“-”

■個別保存項目
“-”

強制 HDD 初期化による立ち上げ

■年月日 / 時間（Date/Time）
デバイスが Ready となった時点

■ユーザー名（User Name）
“-”

■監査事象詳細（Description）
“Started（Hard Disk initialized）”

■結果
“-”

■個別保存項目
“-”

シャットダウン

■年月日 / 時間（Date/Time）
デバイスが電源のオフ要求を検出した時点

■ユーザー名（User Name）
“-”

■監査事象詳細（Description）
“Shutdown requested”

■結果
“-”

■個別保存項目

アクション
終端文字列を含まない 64 バイト
「障害を復旧した」場合は ”Recovered from failures”
上記以外の場合は “-”

ハードディスクの上書き消去

ハードディスクの上書き消去の開始

■**年月日 / 時間（Date/Time）**
本機能実行が開始した時点

■**ユーザー名（User Name）**
“-”

■**監査事象詳細（Description）**
“Image Overwriting started”

■**結果**
“Successful”
“Failed”

■**個別保存項目**
動作種別
“Scheduled”
“On Demand”
のいずれか

ハードディスクの上書き消去の終了

■**年月日 / 時間（Date/Time）**
本機能実行が終了した時点

■**ユーザー名（User Name）**
“-”

■**監査事象詳細（Description）**
“Image Overwriting finished”

■**結果**
“Successful”
“Failed”

■**個別保存項目**
動作種別
“Scheduled”
“On Demand”
のいずれか

機械起動時のプログラム診断

機械起動時のプログラム診断の結果

■年月日 / 時間（Date/Time）

デバイスが Ready になる直前

■ユーザー名（User Name）

“-”

■監査事象詳細（Description）

“Self Test”

■結果

“Successful”

“Failed”

■個別保存項目

確認コード 1

確認コード 2

ログインおよびログアウト

■監査事象識別子（Audit Event ID）

0x0201

■監査事象名（Logged Event）

“Login/Logout”

ユーザー認証

ログイン

■年月日 / 時間（Date/Time）

ユーザーの認証結果が確定した時点

■ユーザー名（User Name）

ログイン対象の「ユーザー識別子」、不明な場合は “-”
ただし、
機械管理者の場合は “KO”
カストマーエンジニアの場合は “CE”
Guest（ 認証モードが外部認証の場合に適用される特殊ユーザー ）の場合は “Guest”

■監査事象詳細（Description）

“Login”

■結果

“Successful”
“Failed（Invalid UserID）”
“Failed（Invalid Password）”
“Failed”

■個別保存項目

アクセス方法

“Local”
“Web User Interface”
のいずれか

Host 名

終端文字列を含まない 45 バイト
「IP アドレス」を記載し、「IP アドレス」が不明の場合は “-”
ローカルアクセスの場合は “-”

認証方法

“Local ”、“Remote”、“Convenience”、“Custom” のいずれか

Simple Identification の場合は “Local”

SmartCard 認証の場合は “Remote”

役割

“System Administrator”、“Accounting Administrator”、“Customer Engineer”、“Casual Operator”、“-” のいずれか

ログインに失敗した場合は、“-”

機械管理者は常に “System Administrator”

カストマーエンジニア、CSE は常に “Customer Engineer”

機械管理者や集計管理者の権限を持たないユーザー、および Guest(認証モードが外部認証の場合に適用される特殊ユーザー) の場合は “Casual Operator”

ログアウト

■年月日 / 時間 (Date/Time)

ユーザーのログアウト要求を検出した時点

■ユーザー名 (User Name)

ログイン対象の「ユーザー識別子」、不明な場合は “-”

ただし、

機械管理者の場合は “KO”

カストマーエンジニアの場合は “CE”

Guest(認証モードが外部認証の場合に適用される特殊ユーザー) の場合は “Guest”

■監査事象詳細 (Description)

“Logout”

■結果

“Successful”

“Failed”

■個別保存項目

アクセス方法

“Local”

“Web User Interface”

のいずれか

Host 名

終端文字列を含まない 45 バイト

「IP アドレス」を記載し、「IP アドレス」が不明の場合は “-”

ローカルアクセスの場合は “-”

認証ロック

注記
- 検知タイミングにより、対象となるログイン事象（失敗）より先に記録される場合があります。

■年月日 / 時間（Date/Time）

連続で機械管理者認証に失敗した回数がシステムに設定された数に到達した時点

■ユーザー名（User Name）

ログイン対象の「ユーザー識別子」、不明な場合は “-”

ただし、

機械管理者の場合は “KO”

カストマーエンジニアの場合は “CE”

Guest（認証モードが外部認証の場合に適用される特殊ユーザー）の場合は “Guest”

■監査事象詳細（Description）

“Locked Authentication”

■結果

“-”

■個別保存項目

ロックまでの認証エラー回数

不正侵入攻撃検知

注記
- 検知タイミングにより、対象となるログイン事象（失敗）より先に記録される場合があります。

■年月日 / 時間（Date/Time）

規定時間内に、連続で認証に失敗した回数が、システムに設定された数に到達した時点

■ユーザー名（User Name）

ログイン対象の「ユーザー識別子」、不明な場合は “-”

■監査事象詳細（Description）

“Detected continuous Authentication Fail”

■結果

“-”

■個別保存項目

検知手段（プロトコル）

“SNMPv3”、“Web User Interface”、“-” のいずれか

不正攻撃認証までの連続認証エラー回数

監査ポリシーの変更

■監査事象識別子（Audit Event ID）
0x0301

■監査事象名（Logged Event）
“Audit Policy”

重要データへのアクセス

監査ログ機能の有効化

■年月日 / 時間（Date/Time）
該当設定項目を設定した時点

■ユーザー名（User Name）
機械管理者の場合は “KO”
カストマーエンジニアの場合は “CE”
それ以外のユーザーの場合はユーザー ID
ユーザー ID が取得できない場合は “-”

■監査事象詳細（Description）
“Audit Log”

■結果
“Enabled”

■個別保存項目
“-”

監査ログ機能の無効化

■年月日 / 時間（Date/Time）
該当設定項目を設定した時点

■ユーザー名（User Name）
機械管理者の場合は “KO”
カストマーエンジニアの場合は “CE”
それ以外のユーザーの場合はユーザー ID
ユーザー ID が取得できない場合は “-”

■監査事象詳細（Description）
“Audit Log”

■結果
“Disabled”

■個別保存項目

“-”

ジョブの終了

■監査事象識別子（Audit Event ID）

0x0401

■監査事象名（Logged Event）

“Job Status”

ジョブ

プリンター

■年月日 / 時間（Date/Time）

ジョブが終了した時点

■ユーザー名（User Name）

ジョブ実行したユーザーの「ユーザー名」、または「ユーザー識別子」（ユーザー名優先）

「ユーザー名」と「ユーザー識別子」の両方が不明な場合は “-”

■監査事象詳細（Description）

“Print”

■結果

“Completed”

“Completed with Warnings”

“Canceled by User”

“Canceled by Shutdown”

“Aborted”

“Unknown”

■個別保存項目

root ジョブ UUID

終端文字列を含まない 36 バイト

root ジョブ UUID と当該ジョブとの関連

“Related”

“Owned”

のいずれか

Job Account ID

終端文字列を含まない 32 バイト

値が設定されていない場合は “-”

アクション

終端文字列を含まない 64 バイト

「強制印字一時解除」がなされた場合は “Released forced output”

上記以外の場合は “-”

Host 名

終端文字列を含まない 45 バイト

「Host 名」または「IP アドレス」（Host 名優先 ）を記載する

「Host 名」と「IP アドレス」の両方が不明の場合は “-”

ファイル名

終端文字列を含まない 64 バイト

値が設定されていない場合は “-”

ジョブタイプ

終端文字列を含まない 16 バイト

値が設定されていない場合は “-”

コピー

■年月日 / 時間（Date/Time）

ジョブが終了した時点

■ユーザー名（User Name）

ジョブ実行したユーザーの「ユーザー名」、または「ユーザー識別子」（ユーザー名優先）

「ユーザー名」と「ユーザー識別子」の両方が不明な場合は “-”

■監査事象詳細（Description）

“Copy”

■結果

“Completed”

“Completed with Warnings”

“Canceled by User”

“Canceled by Shutdown”

“Aborted”

“Unknown”

■個別保存項目

root ジョブ UUID

終端文字列を含まない 36 バイト

root ジョブ UUID と当該ジョブとの関連

“Related“

“Owned“

のいずれか

Job Account ID

終端文字列を含まない 32 バイト

値が設定されていない場合は “-”

アクション

終端文字列を含まない 64 バイト

「強制印字一時解除」がなされた場合は “Released forced output”

「制限コード検知一時解除」がなされた場合は “Ignored inhibited code”

複数の操作がなされた場合は、“,” をセパレータとして連結する

上記いずれの操作もなされていない場合は “-”

スキャナー

■年月日 / 時間（Date/Time）

ジョブが終了した時点

■ユーザー名（User Name）

ジョブ実行したユーザーの「ユーザー名」、または「ユーザー識別子」（ユーザー名優先）

「ユーザー名」と「ユーザー識別子」の両方が不明な場合は “-”

■監査事象詳細（Description）

“Scan”

■結果

“Completed”

“Completed with Warnings”

“Canceled by User”

“Canceled by Shutdown”

“Aborted”

“Unknown”

■個別保存項目

root ジョブ UUID

終端文字列を含まない 36 バイト

root ジョブ UUID と当該ジョブとの関連

“Related”

“Owned”

のいずれか

Job Account ID

終端文字列を含まない 32 バイト

値が設定されていない場合は “-”

アクション

終端文字列を含まない 64 バイト

「制限コード検知一時解除」

“Ignored inhibited code”

「暗号化」

“Encrypted”

「署名」

“Signed”

複数の操作がなされた場合は、“,” をセパレータとして連結する

上記いずれの操作もなされていない場合は “-”

宛先名（to）

終端文字列を含まない 64 バイト

値が設定されていない場合は “-”

補足

- email アドレスのみ設定されます。

送信者名（from）

終端文字列を含まない 64 バイト

値が設定されていない場合は “-”

補足

- email アドレスのみ設定されます。

URL 送信文書 ID

終端文字列を含まない 10 バイト

値が設定されていない場合は “-”

ファクス

■年月日 / 時間（Date/Time）

ジョブが終了した時点

■ユーザー名（User Name）

ジョブ実行したユーザーの「ユーザー名」、または「ユーザー識別子」（ユーザー名優先）

「ユーザー名」と「ユーザー識別子」の両方が不明な場合は “-”

■監査事象詳細（Description）

“Fax”

■結果

“Completed”

“Completed with Warnings”

“Canceled by User”

“Canceled by Shutdown”

“Aborted”

“Unknown”

■個別保存項目

root ジョブ UUID

終端文字列を含まない 36 バイト

root ジョブ UUID と当該ジョブとの関連

“Related”

“Owned”

のいずれか

Job Account ID

終端文字列を含まない 32 バイト

値が設定されていない場合は “-”

アクション

終端文字列を含まない 64 バイト

「強制印字一時解除」

“Released forced output”

「制限コード検知一時解除」

“Ignored inhibited code”

複数の操作がなされた場合は、“,” をセパレータとして連結する

上記いずれの操作もなされていない場合は “-”

宛先名（to）

宛先電話番号またはアドレス帳の宛先名（宛先電話番号優先 ）

終端文字列を含まない 64 バイト

値が設定されていない場合は “-”

送信者名（from）

終端文字列を含まない 64 バイト

値が設定されていない場合は “-”

補足

- email アドレスのみ設定されます。

親展ボックス

■年月日 / 時間（Date/Time）

ジョブが終了した時点

■ユーザー名（User Name）

ジョブ実行したユーザーの「ユーザー名」、または「ユーザー識別子」（ユーザー名優先）

「ユーザー名」と「ユーザー識別子」の両方が不明な場合は “-”

■監査事象詳細（Description）

“Mailbox”

■**結果**

“Completed”
“Completed with Warnings”
“Canceled by User”
“Canceled by Shutdown”
“Aborted”
“Unknown”

■**個別保存項目**

root ジョブ UUID
終端文字列を含まない 36 バイト

root ジョブ UUID と当該ジョブとの関連
“Related”
“Owned”
のいずれか

Job Account ID
終端文字列を含まない 32 バイト
値が設定されていない場合は “-”

アクション
終端文字列を含まない 64 バイト
「強制印字一時解除」がなされた場合は
“Released forced output”
上記以外の場合は “-”

レポート

■**年月日 / 時間（Date/Time）**
ジョブが終了した時点

■**ユーザー名（User Name）**
ジョブ実行したユーザーの「ユーザー名」、または「ユーザー識別子」（ユーザー名優先）
「ユーザー名」と「ユーザー識別子」の両方が不明な場合は “-”

■**監査事象詳細（Description）**
“Print Reports”

■結果

“Completed”
“Completed with Warnings”
“Canceled by User”
“Canceled by Shutdown”
“Aborted”
“Unknown”

■個別保存項目

root ジョブ UUID
終端文字列を含まない 36 バイト

root ジョブ UUID と当該ジョブとの関連
“Related”
“Owned”
のいずれか

Job Account ID
終端文字列を含まない 32 バイト
値が設定されていない場合は ”-”

フローサービス

■年月日 / 時間（Date/Time）
ジョブが終了した時点

■ユーザー名（User Name）
ジョブ実行したユーザーの「ユーザー名」、または「ユーザー識別子」（ユーザー名優先）
「ユーザー名」と「ユーザー識別子」の両方が不明な場合は “-”

■監査事象詳細（Description）
“Job Flow Service”

■結果
“Completed”
“Completed with Warnings”
“Canceled by User”
“Canceled by Shutdown”
“Aborted”
“Unknown”

■個別保存項目

root ジョブ UUID
終端文字列を含まない 36 バイト

root ジョブ UUID と当該ジョブとの関連

“Related”

“Owned”

のいずれか

Job Account ID

終端文字列を含まない 32 バイト

値が設定されていない場合は ”-”

上記以外

■年月日 / 時間（Date/Time）

ジョブが終了した時点

■ユーザー名（User Name）

ジョブ実行したユーザーの「ユーザー名」、または「ユーザー識別子」（ユーザー名優先）

「ユーザー名」と「ユーザー識別子」の両方が不明な場合は “-”

■監査事象詳細（Description）

“-”

■結果

“Completed”

“Completed with Warnings”

“Canceled by User”

“Canceled by Shutdown”

“Aborted”

“Unknown”

■個別保存項目

root ジョブ UUID

終端文字列を含まない 36 バイト

root ジョブ UUID と当該ジョブとの関連

“Related”

“Owned”

のいずれか

Job Account ID

終端文字列を含まない 32 バイト

値が設定されていない場合は “-”

デバイス設定の変更 / 参照

■監査事象識別子（Audit Event ID）

0x0501

■監査事象名（Logged Event）

“Device Settings”

時刻設定

時刻設定（ローカルタイム）の変更

■年月日 / 時間（Date/Time）

設定変更結果が確定した時点

設定変更が成功した場合、設定変更後の日時が記録される

■ユーザー名（User Name）

時刻変更を行ったユーザー ID を記録する

機械管理者の場合は “KO”

カストマーエンジニアの場合は “CE”

それ以外のユーザーの場合はユーザー ID

ユーザー ID が取得できない場合は “-”

■監査事象詳細（Description）

“Adjust Time”

■結果

“Successful”

“Failed”

■個別保存項目

旧日時

監査事象発生の年月日および時間（時分秒）

手段

◆サービスによる時刻変更の場合は下記のいずれかの文字列を記録する

“Time change by system.”

“Time change by EPBB.”

“Time change by NTP.”

“Time change by SNMP.”

“Time change by XPJL.”

“Time change by SSMM.”

“Time change by unknown service.”

◆ユーザーによる時刻変更の場合は下記の文字列を記録する

“Time change by user”

時刻変更を行ったサービスが NTP サーバーの場合、追加でホスト名または IP アドレスを記録する

ユーザー情報

ユーザー登録

■年月日 / 時間（Date/Time）

ユーザー登録結果が確定した時点

■ユーザー名（User Name）

機械管理者の場合は “KO”

カストマーエンジニアの場合は “CE”

システム内部動作に起因する場合は “System”

それ以外のユーザーの場合はユーザー ID

ユーザー ID が取得できない場合は “-”

■監査事象詳細（Description）

“Add User”

■結果

“Successful”

“Failed”

■個別保存項目

対象ユーザーの「ユーザー識別子」

対象ユーザーの役割

“System Administrator”

“Accounting Administrator”

“Casual Operator”

のいずれか

機械管理者や集計管理者の権限を持たないユーザー、および Guest（認証モードが外部認証の場合に適用される特殊ユーザー）の場合は “Casual Operator” が記録される

ユーザー登録内容変更

注記

- 認証モードが本体認証以外の場合は記録しません。ただし、機械管理者のユーザー情報はデバイスに保持されるため、機械管理者ユーザーの登録内容が変更される場合は記録します。

■年月日 / 時間（Date/Time）

ユーザー登録内容変更結果が確定した時点

■ユーザー名（User Name）

機械管理者の場合は “KO”

カストマーエンジニアの場合は “CE”

システム内部動作に起因する場合は “System”

それ以外のユーザーの場合はユーザー ID

ユーザー ID が取得できない場合は “-”

■監査事象詳細（Description）

“Edit User”

■結果

“Successful”

“Failed”

■個別保存項目

対象ユーザーの「ユーザー識別子」

ユーザー識別子自身が変更された場合は、変更後の「ユーザー識別子」が記録される

対象ユーザーの役割

“System Administrator”

“Accounting Administrator”

“Casual Operator”

“-”

のいずれか

役割自身が変更された場合は、変更後の役割が記録される

機械管理者や集計管理者の権限を持たないユーザー、および Guest（認証モードが外部認証の場合に適用される特殊ユーザー）の場合は “Casual Operator” が記録される

変更対象の属性

“ID”

“Password”

“CardID”

“Name”

“Permission”

“Role”

“ICCardID”

“Other”

ユーザー削除

■年月日 / 時間（Date/Time）

ユーザー削除結果が確定した時点

■ユーザー名（User Name）
機械管理者の場合は “KO”
カストマーエンジニアの場合は “CE”
システム内部動作に起因する場合は “System”
それ以外のユーザーの場合はユーザー ID
ユーザー ID が取得できない場合は “-”

■監査事象詳細（Description）
“Delete User”

■結果
“Successful”
“Failed”

■個別保存項目

対象ユーザーの「ユーザー識別子」

対象ユーザーの役割
“System Administrator”
“Accounting Administrator”
“Casual Operator”
のいずれか

使用済みユーザー名管理テーブルフル

■年月日 / 時間（Date/Time）
使用済みユーザー管理テーブルのフルを検知した時点

■ユーザー名（User Name）
“-”

■監査事象詳細（Description）
“Deleted Username Queue Overflow”

■結果
“Successful”

■個別保存項目
“-”

親展ボックス

ボックス開設

■年月日 / 時間（Date/Time）
ボックス開設結果が確定した時点

■ユーザー名（User Name）

機械管理者の場合は “KO”
カストマーエンジニアの場合は “CE”
それ以外のユーザーの場合はユーザー ID
ユーザー ID が取得できない場合は “-”

■監査事象詳細（Description）

“Create Mailbox”

■結果

“Successful”
“Failed”

■個別保存項目

Host 名

終端文字列を含まない 45 バイト
「Host 名」または「IP アドレス」（Host 名優先 ）を記載する
「Host 名」と「IP アドレス」の両方が不明の場合は “-”
操作パネルから実施された場合は、“Local”

BOX 番号

左詰め (最上位桁から連続する 0 は省略する ）最大 3 桁の半角数字表記 （ 例 ）“23”

ボックス削除

■年月日 / 時間（Date/Time）

ボックス削除結果が確定した時点

■ユーザー名（User Name）

機械管理者の場合は “KO”
カストマーエンジニアの場合は “CE”
それ以外のユーザーの場合はユーザー ID
ユーザー ID が取得できない場合は “-”

■監査事象詳細（Description）

“Delete Mailbox”

■結果

“Successful”
“Failed”

■個別保存項目

Host 名

終端文字列を含まない 45 バイト
「Host 名」または「IP アドレス」（Host 名優先 ）を記載する
「Host 名」と「IP アドレス」の両方が不明の場合は “-”
操作パネルから実施された場合は、“Local”

BOX 番号

左詰め (最上位桁から連続する 0 は省略する ）最大 3 桁の半角数字表記 （ 例 ）“23”

認証モード

変更

■年月日 / 時間（Date/Time）

システムデータへの値設定が完了した時点

■ユーザー名（User Name）

機械管理者の場合は “KO”
カストマーエンジニアの場合は “CE”
システム内部動作に起因する場合は “System”
SNMP 経由の場合は “SNMP:admin”
それ以外のユーザーの場合はユーザー ID
ユーザー ID が取得できない場合は “-”

■監査事象詳細（Description）

“Switch Authentication Mode”

■結果

“Successful”

■個別保存項目

新設定値

“Local is enabled”
“Network is enabled”
“Convenience is enabled”
“Custom is enabled”
“OFF is enabled”
のいずれか

旧設定値

“Local is enabled”
“Network is enabled”
“Convenience is enabled”
“Custom is enabled”
“OFF is enabled”
のいずれか

セキュリティ関連

変更

■年月日 / 時間（Date/Time）

該当設定項目を設定した時点
リブート後反映の設定変更であっても、値変更時を保存タイミングとする

■ユーザー名（User Name）

機械管理者の場合は “KO”
カストマーエンジニアの場合は “CE”
システム内部動作に起因する場合は “System”
SNMP 経由の場合は “SNMP:admin”
それ以外のユーザーの場合はユーザー ID
ユーザー ID が取得できない場合は “-”

■監査事象詳細（Description）

“Change Security Setting”

■結果

“Successful”

■個別保存項目

項目名

“Authentication”
“Authorization”
“Accounting”
“Image Overwrite”

補足

- 「しない」から「3 回」に変更すると監査ログが二つ記録されます。

“HDD Encryption”
“S/MIME”
“IPSEC”
“SNMPv1/v2”
“SNMPv1/v2（Read Only）”
“SNMPv3”

“SNMPv3（Read Only）”
“802.1x”
“Certificate Verify Mode”
“Maintainer Password”
“SmartCard”
“FIPS140”
“Self Test”
“Auto Clear Timer”
“Service Rep. Restricted Operation”
“Print Reports Button”
“External Code Integrity Check”
“NFC”
“No Encrypt Ext App Install”
“Keypad Setting”
“CORS”
“ThinPrint”
“HTTP SSL/TLS”
“HTTP SSL/TLS Forced”
“IPP SSL/TLS Forced”
“SMTP SSL/TLS”
“LDAP SSL/TLS”
“ThinPrint SSL/TLS”
“Session Lock Timer”
“Authentication Operation Message”
“USB Port Management”
“Front USB-A”
“Rear USB-A”
“PC USB-B”
“Deleted User Account Names Days of Restriction”
“Maximum Number of Reusable Sequential Characters”
“Number of Password Generations Required”
“ID Token Validation（Azure Active Directory）”
“Certificate Verify Mode（Azure Active Directory）”
“Invalid User Deletion（Azure Active Directory）”
“Syslog”

変更内容

有効 / 無効のパラメータが変更された場合は “is enabled”、“is disabled” のいずれか

有効 / 無効以外のパラメータが変更された場合は “is configured”

参照

■**年月日 / 時間（Date/Time）**

CentreWare Internet Services から参照した場合には対象となるデータを含む HTML を取得したタイミング

操作パネルから参照した場合には仕様設定画面に入ったタイミング

■**ユーザー名（User Name）**

機械管理者の場合は “KO”

カストマーエンジニアの場合は “CE”

それ以外のユーザーの場合はユーザー ID

ユーザー ID が取得できない場合は “-”

■**監査事象詳細（Description）**

“View Security Setting”

■**結果**

“Successful”

■**個別保存項目**

アクセス方法

“Local”

“Web User Interface”

のいずれか

Host 名

終端文字列を含まない 45 バイト

「Host 名」または「IP アドレス」（Host 名優先 ）を記載する

「Host 名」と「IP アドレス」の両方が不明の場合は “-”

ローカルアクセスの場合は “-”

ジョブ関連

変更

■**年月日 / 時間（Date/Time）**

該当設定項目を設定した時刻

■**ユーザー名（User Name）**

“CE”

■**監査事象詳細（Description）**

“Change Job Setting”

■**結果**

“Successful”

■個別保存項目

機能名

“Delay Print”

“Private Print”

デバイス格納データへのアクセス

■監査事象識別子（Audit Event ID）

0x0601

■監査事象名（Logged Event）

“Device Data”

証明書

証明書登録

■年月日 / 時間（Date/Time）

証明書登録結果が確定した時点

■ユーザー名（User Name）

機械管理者の場合は “KO”
カストマーエンジニアの場合は “CE”
システム内部動作に起因する場合は “System”
それ以外のユーザーの場合はユーザー ID
ユーザー ID が取得できない場合は “-”

■監査事象詳細（Description）

“Import Certificate”

■結果

“Successful”
“Failed”

■個別保存項目

カテゴリ

“RootCA”
“DeviceEE”
“SSCEE”
のいずれか

鍵長

“512” から “2048” まで

発行者 DN

文字列最大 150 バイト

シリアル番号

最大 40 バイト

証明書抹消

■ **年月日 / 時間（Date/Time）**

証明書抹消結果が確定した時点

■ **ユーザー名（User Name）**

機械管理者の場合は “KO”
カストマーエンジニアの場合は “CE”
システム内部動作に起因する場合は “System”
それ以外のユーザーの場合はユーザー ID
ユーザー ID が取得できない場合は “-”

■ **監査事象詳細（Description）**

“Delete Certificate”

■ **結果**

“Successful”
“Failed”

■ **個別保存項目**

カテゴリ

“RootCA”
“DeviceEE”
“SSCEE”
のいずれか

鍵長

“512” から “2048” まで

発行者 DN

文字列最大 150 バイト

シリアル番号

最大 40 バイト

アドレス帳

宛先追加

■ **年月日 / 時間（Date/Time）**

宛先追加結果が確定した時点

■ **ユーザー名（User Name）**

機械管理者の場合は “KO”
カストマーエンジニアの場合は “CE”
それ以外のユーザーの場合はユーザー ID
ユーザー ID が取得できない場合は “-”

■監査事象詳細（Description）
“Add Address Entry”

■結果
“Successful”
“Failed”

■個別保存項目

Host 名
終端文字列を含まない 45 バイト
「Host 名」または「IP アドレス」（Host 名優先 ）を記載する
「Host 名」と「IP アドレス」の両方が不明の場合は “-”
操作パネルから実施された場合は、“Local”

登録番号
左詰め (最上位桁から連続する 0 は省略する ）最大 4 桁の半角数字表記
(例)“35”

宛先削除

■年月日 / 時間（Date/Time）
宛先削除結果が確定した時点

■ユーザー名（User Name）
機械管理者の場合は “KO”
カストマーエンジニアの場合は “CE”
それ以外のユーザーの場合はユーザー ID
ユーザー ID が取得できない場合は “-”

■監査事象詳細（Description）
“Delete Address Entry”

■結果
“Successful”
“Failed”

■個別保存項目

Host 名
終端文字列を含まない 45 バイト
「Host 名」または「IP アドレス」（Host 名優先 ）を記載する
「Host 名」と「IP アドレス」の両方が不明の場合は “-”
操作パネルから実施された場合は、“Local”

登録番号
左詰め (最上位桁から連続する 0 は省略する ）最大 4 桁の半角数字表記
(例)“35”

宛先変更

■**年月日 / 時間（Date/Time）**

宛先変更結果が確定した時点

■**ユーザー名（User Name）**

機械管理者の場合は “KO”
カストマーエンジニアの場合は “CE”
それ以外のユーザーの場合はユーザー ID
ユーザー ID が取得できない場合は “-”

■**監査事象詳細（Description）**

“Edit Address Entry”

■**結果**

“Successful”
“Failed”

■**個別保存項目**

Host 名

終端文字列を含まない 45 バイト
「Host 名」または「IP アドレス」（Host 名優先 ）を記載する
「Host 名」と「IP アドレス」の両方が不明の場合は “-”
操作パネルから実施された場合は、“Local”

登録番号

左詰め (最上位桁から連続する 0 は省略する ）最大 4 桁の半角数字表記
(例)“35”

リモートクライアントからアップロード (全体)

■**年月日 / 時間（Date/Time）**

リモートクライアントからのアップロード結果が確定した時点

■**ユーザー名（User Name）**

機械管理者の場合は “KO”
カストマーエンジニアの場合は “CE”
それ以外のユーザーの場合はユーザー ID
ユーザー ID が取得できない場合は “-”

■**監査事象詳細（Description）**

“Import Address Entry”

■**結果**

“Successful”
“Failed”

■個別保存項目

Host 名

終端文字列を含まない 45 バイト
「Host 名」または「IP アドレス」（Host 名優先 ）を記載する
「Host 名」と「IP アドレス」の両方が不明の場合は “-”

リモートクライアントへのダウンロード (全体)

■年月日 / 時間 (Date/Time)

リモートクライアントへのダウンロード結果が確定した時点

■ユーザー名 (User Name)

機械管理者の場合は “KO”
カストマーエンジニアの場合は “CE”
それ以外のユーザーの場合はユーザー ID
ユーザー ID が取得できない場合は “-”

■監査事象詳細 (Description)

“Export Address Entry”

■結果

“Successful”
“Failed”

■個別保存項目

Host 名

終端文字列を含まない 45 バイト
「Host 名」または「IP アドレス」（Host 名優先 ）を記載する
「Host 名」と「IP アドレス」の両方が不明の場合は “-”

宛先全削除

■年月日 / 時間 (Date/Time)

全宛先削除結果が確定した時点

■ユーザー名 (User Name)

機械管理者の場合は “KO”
カストマーエンジニアの場合は “CE”
それ以外のユーザーの場合はユーザー ID
ユーザー ID が取得できない場合は “-”

■監査事象詳細 (Description)

“Clear Address Entry”

■結果

“Successful”

“Failed”

■個別保存項目

Host 名

終端文字列を含まない 45 バイト

「Host 名」または「IP アドレス」(Host 名優先) を記載する

「Host 名」と「IP アドレス」の両方が不明の場合は “-”

監査ログ

リモートクライアントへのダウンロード (全体)

■年月日 / 時間 (Date/Time)

ダウンロード結果が確定した時点

■ユーザー名 (User Name)

機械管理者の場合は “KO”

カストマーエンジニアの場合は “CE”

それ以外のユーザーの場合はユーザー ID

ユーザー ID が取得できない場合は “-”

■監査事象詳細 (Description)

“Export Audit Log”

■結果

“Successful”

“Failed”

■個別保存項目

Host 名

終端文字列を含まない 45 バイト

「Host 名」または「IP アドレス」(Host 名優先) を記載する

「Host 名」と「IP アドレス」の両方が不明の場合は “-”

文書

スキャナー (URL 送信) 文書のリモートクライアントへの送信

注記

- スキャナー (URL 送信) で保存された文書のみが対象となります。

■年月日 / 時間 (Date/Time)

リモートクライアントへの送信結果が確定した時点

■ユーザー名（User Name）

機械管理者の場合は “KO”
カストマーエンジニアの場合は “CE”
それ以外のユーザーの場合はユーザー ID
ユーザー ID が取得できない場合は “-”

■監査事象詳細（Description）

“Retrieve scanned image”

■結果

“Successful”
“Failed”

■個別保存項目

Host 名

終端文字列を含まない 45 バイト
「Host 名」または「IP アドレス」（Host 名優先 ）を記載する
「Host 名」と「IP アドレス」の両方が不明の場合は “-”

URL 送信文書 ID

終端文字列を含まない 10 バイト

カスタムサービス

Install

■年月日 / 時間（Date/Time）

Install 終了時

■ユーザー名（User Name）

“-”

■監査事象詳細（Description）

“Install Custom Service”

■結果

“Successful”
“Failed”

■個別保存項目

カスタムサービスコンテンツ名（name）

（例）CS_RM_00108
不明の場合は “-”

失敗理由を指す下記文字列（失敗の場合に記録する）

原因がインスタンス作成時、指定のカスタムサービス名が既にデバイス上に存在する場合

Application already exists.

上記以外の場合

RegApp regist failed to management service.

不正なカスタムサービス・コンテンツ登録

■**年月日 / 時間（Date/Time）**

カスタムサービス・コンテンツファイルの署名検証に失敗した時点

■**ユーザー名（User Name）**

機械管理者の場合は “KO”

カストマーエンジニアの場合は “CE”

それ以外のユーザーの場合はユーザー ID

ユーザー ID が取得できない場合は “-”

■**監査事象詳細（Description）**

“Install Custom Service”

■**結果**

“Failed”

■**個別保存項目**

Host 名

終端文字列を含まない 45 バイト

「Host 名」または「IP アドレス」（Host 名優先）を記載する

「Host 名」と「IP アドレス」の両方が不明（取得エラーの場合も含む）の場合は “-”

CPIM 経由の場合は、パッケージ取得先サーバーの FQDN

カスタムサービスコンテンツ名

終端文字列を含まない 63 バイト

取得できない場合（取得エラーの場合も含む）は “-”

Uninstall

■**年月日 / 時間（Date/Time）**

Uninstall 終了時

■**ユーザー名（User Name）**

“-”

■**監査事象詳細（Description）**

“Uninstall Custom Service”

■結果

“Successful”

“Failed”

■個別保存項目

カスタムサービスコンテンツ名（name）

（例）CS_RM_00108

不明の場合は “-”

失敗理由を指す下記文字列（失敗の場合に記録する）

Failed to delete RegApp from management service.

XCP プラグイン

Install

■年月日 / 時間（Date/Time）

Install 終了時

■ユーザー名（User Name）

“-”

■監査事象詳細（Description）

“Install Embedded Plug-in”

■結果

“Successful”

“Failed”

■個別保存項目

XCP プラグイン名

不明の場合は “-”

不正な XCP プラグイン登録

■年月日 / 時間（Date/Time）

XCP プラグインファイルの署名検証に失敗した時点

■ユーザー名（User Name）

機械管理者の場合は “KO”

カストマーエンジニアの場合は “CE”

それ以外のユーザーの場合はユーザー ID

ユーザー ID が取得できない場合は “-”

■監査事象詳細（Description）

“Install Embedded Plug-in”

■結果

“Failed”

■個別保存項目

Host 名

終端文字列を含まない 45 バイト

「Host 名」または「IP アドレス」（Host 名優先 ）を記載する

「Host 名」と「IP アドレス」の両方が不明 (取得エラーの場合も含む) の場合は “-”

CPIM 経由の場合は、パッケージ取得先サーバーの FQDN

プラグインファイル名

CPIM 経由の場合は、ダウンロードしたファイルのダウンロード名

終端文字列を含まない 63 バイト

取得できない場合 (取得エラーの場合も含む) は “-”

Uninstall

■年月日 / 時間（Date/Time）

Uninstall 終了時

■ユーザー名（User Name）

“-”

■監査事象詳細（Description）

“Uninstall Embedded Plug-in”

■結果

“Successful”

“Failed”

■個別保存項目

XCP プラグイン名

不明の場合は “-”

Cloning

Export

■年月日 / 時間（Date/Time）

Export が終了した時点

■ユーザー名（User Name）

機械管理者の場合は “KO”

カストマーエンジニアの場合は “CE”

それ以外のユーザーの場合はユーザー ID

ユーザー ID が取得できない場合は “-”

■**監査事象詳細（Description）**

“Export Cloning Data”

■**結果**

“Successful”

“Failed”

■**個別保存項目**

“-”

Import

■**年月日 / 時間（Date/Time）**

Import が終了した時点

■**ユーザー名（User Name）**

機械管理者の場合は “KO”

カストマーエンジニアの場合は “CE”

それ以外のユーザーの場合はユーザー ID

ユーザー ID が取得できない場合は “-”

■**監査事象詳細（Description）**

“Import Cloning Data”

■**結果**

“Successful”

“Failed”

■**個別保存項目**

“-”

Weblet

Install

■**年月日 / 時間（Date/Time）**

Install が終了した時点

■**ユーザー名（User Name）**

機械管理者の場合は “KO”

カストマーエンジニアの場合は “CE”

それ以外のユーザーの場合はユーザー ID

ユーザー ID が取得できない場合は “-”

■**監査事象詳細（Description）**

“Install Ext App”

■ **結果**

“Successful”

“Failed”

■ **個別保存項目**

Weblet の名前

不明の場合は “-”

失敗の理由

成功、または失敗理由が不明の場合は “-”

Uninstall

■ **年月日 / 時間（Date/Time）**

Uninstall が終了した時点

■ **ユーザー名（User Name）**

機械管理者の場合は “KO”

カストマーエンジニアの場合は “CE”

それ以外のユーザーの場合はユーザー ID

ユーザー ID が取得できない場合は “-”

■ **監査事象詳細（Description）**

“Uninstall Ext App”

■ **結果**

“Successful”

“Failed”

■ **個別保存項目**

Weblet の名前

不明の場合は “-”

失敗の理由

成功、または失敗理由が不明の場合は “-”

デバイス構成の変更 / 復旧

■監査事象識別子（Audit Event ID）
0x0701

■監査事象名（Logged Event）
“Device Config”

重要パーツ

重要パーツ交換

■年月日 / 時間（Date/Time）
重要パーツの交換が検出された時点

■ユーザー名（User Name）
“-”

■監査事象詳細（Description）
“Important Parts”

■結果
“Replaced”

■個別保存項目
“-”

HDD

HDD 交換検知

■年月日 / 時間（Date/Time）
HDD をシステムが認識した時点

■ユーザー名（User Name）
“-”

■監査事象詳細（Description）
“Hard Disk”

■結果
“Installed”
“Removed”
“Replaced”

■個別保存項目
“-”

ROM

ROM バージョン変更

■年月日 / 時間（Date/Time）

前回起動時の ROM バージョンと現在起動中の ROM バージョンの差を検知した時点

補足

- ROM 毎にバージョンを検知するタイミングは異なります。
- NVM 初期化時、オプションの追加 / 削除時には記録されません。

■ユーザー名（User Name）

機械管理者の場合は “KO”

カストマーエンジニアの場合は “CE”

EPBB センターから指示された場合は “System”

それ以外のユーザーの場合はユーザー ID

ユーザー ID が取得できない場合は “-”

■監査事象詳細（Description）

“Software”

■結果

“Updated”

■個別保存項目

ROM 種別

（例 ）

“IOT ”

“Controller+PS”

“FAX”

新バージョン

旧バージョン

通信結果

■監査事象識別子（Audit Event ID）

0x0801

■監査事象名（Logged Event）

“Communication”

信頼性通信

信頼性通信エラー

■年月日 / 時間（Date/Time）

定期チェックで信頼性通信エラーを検出した時点

■ユーザー名（User Name）

“-”

■監査事象詳細（Description）

“Trusted Communication”

■結果

“Failed”

■個別保存項目

プロトコル名

“SSL/TLS”、“IPSEC”、“S/MIME” の何れか

通信先

終端文字列を含まない 45 バイト

「Host 名」または「IP アドレス」を記載する

「Host 名」と「IP アドレス」の両方が不明の場合、または S/MIME の場合は ,“-”

失敗回数

失敗理由

○表示例

“SSL/TLS,[3ffe:0200:0000:010a:0000:0000:0000:0001],3,Certificate verification failed”

“IPSEC,[3ffe:0200:0000:010a:0000:0000:0000:0001],23,IKE negotiation failed”

○通信先表記

IPv6：　“[3ffe:0200:0000:010a:0000:0000:0000:0001]”（最大 41 バイト）

IPv4：　“129.249.79.100”（最大 15 バイト）

ホスト名：“host.fujixerox.co.jp”（最大 46 バイト、超える場合には、ドメイン上位階層、FQDN 右側を切り捨て）

○ 1 つのエラー表現の最大長デリミタの文字を含んで 69 バイト

補足

- 上記項目と項目の間に ”,” が入ります。
- 複数のエラーが発生した場合は、1 つのエラーにつき 1 行の出力となります。
- 発生したエラーが 50 件を超えた場合は、50 件目以降のエラーを ”+” で表します。

NTP

信頼性通信エラー

■年月日 / 時間（Date/Time）

NTP サーバーとの通信失敗を検出した時点

■ユーザー名（User Name）

“System”

■監査事象詳細（Description）

“NTP Communication”

■結果

“Failed”

■個別保存項目

通信先

終端文字列を含まない 45 バイト

「Host 名（FQDN）」または「IP アドレス」を記載する

「Host 名」と「IP アドレス」の両方が不明の場合は “-”

Host 名の名前解決に失敗した場合は Host 名を記載する

失敗理由

“ サーバー通信 ”、“DNS 通信 ” の何れか

○表示例

“[3ffe:0200:0000:010a:0000:0000:0000:0001],NTP negotiation failed”

“ntp.fujixerox.co.jp,dns name resolution failed ”

○通信先表記

IPv6： “[3ffe:0200:0000:010a:0000:0000:0000:0001]”（最大 41 バイト）

IPv4： “129.249.79.100”（最大 15 バイト）

ホスト名：“host.fujixerox.co.jp”（ 最大 46 バイト、超える場合には、ドメイン上位階層、FQDN 右側を切り捨て ）

○ 1 つのエラー表現の最大長デリミタの文字を含んで 82 バイト

（通信先）45+1 +（デリミタ）1+（失敗理由）80+1=128

補足

- 上記項目と項目の間に “,” が入ります。
- 複数のエラーが発生した場合は、1 つのエラーにつき 1 行の出力となります。
- 発生したエラーが 50 件を超えた場合は、50 件目以降のエラーを “+” で表します。

EWB（Embbeded Web Browser）

EWB からの WEB アクセス

■年月日 / 時間（Date/Time）

EWB からアクセスした時点

■ユーザー名（User Name）

機械管理者の場合は “KO”

カストマーエンジニアの場合は “CE”

それ以外のユーザーの場合はユーザー ID

ユーザー ID が取得できない場合は “-”

■監査事象詳細（Description）

“Web Access”

■結果

“Successful”

■個別保存項目

アクセス URL

監査ログリファレンスガイド

著作者 – 富士ゼロックス株式会社
発行者 – 富士ゼロックス株式会社

発行年月 – 2019 年 9 月　　第 1 版

（帳票番号 :ME8737J1-1）